

平成 30 年度 全国納税貯蓄組合連合会優秀賞

ふるさと納税がくれたぬくもり

青翔中学校 三年 大家 衣濃理

この夏、父に一通の暑中見舞の葉書が届いた。差出人は、昨年父がふるさと納税をした自治体だった。葉書には、ふるさと納税のお礼とその市の近況が写真入りで書かれていた。そして、最後に、

「ぜひ一度、お越してください。」

という一文があった。実はその自治体にふるさと納税をすることを決めたのは私で、まるで遠い親戚からもらった葉書のような気がして、とてもうれしかった。

昨年、父から

「ふるさと納税しようと思うんだけど、どの自治体にいくら納税するか、決めて良いよ。

ただし、合計金額が〇〇円以内になるように。それから、どうしてそう決めたのか、

お父さんに説明しなさい。」

と言われた。妹と私はうれしくなって、早速ふるさと納税のサイトを閲覧した。スイーツ好きの私たちは、お礼の品だけを見て、自治体ご自慢のスイーツをあれこれ選び、合計金額の上限に合わせた。父に

「決めたよ。これとこれとこれと…。」

と伝えると、父は渋い顔をして

「どうして、それを選んだ？」

と私たちにたずねた。

「お礼の品のスイーツがおいしそうだから。」と私たちが答えると

「それじゃあ、だめだな。でも、何も知識がない状態で選べばそれも仕方ない。次はどの自治体が今どういう状態で、自治体のどういうところを応援したいか考えて決めなさい。もちろん、お礼の品のことも含めて考えていいよ。」

と言われた。私たちはさっきより何倍もの時間をかけて考えて、決めた。まず自分の住んでいる市、そして通学している市、その年に台風の被害に襲われた市、農業に改革を起こそうとしている市、そして一番気になるスイーツの店が所在する市を選んだ。次に、納めた税がどんな風に使ってほしいのか、各自治体の選択肢から選んだ。私の住む市はその年、川の氾らんがあったので、その修復と今後の対策のために、そして通学している市は私たちや友達が安全に通学できる環境を整備してもらうように…など。一つ一つ父にプレゼンした。父は少し手直しはしたが、大半は私たちの意見を尊重してくれた。

当たり前だが、税金の使い道は思いつきや自分の好みだけで決めてはいけないことを改めて学べた。自分だけでなく誰かの幸せを願って使うのが税金だと認識でき、とても温かい気持ちになった。

父は、届いた葉書を私たちにプレゼントしてくれた。いつかこの市に行って、私たちが決めたふるさと納税で、どんな風が変わったのか見てみたい。

そしてこれからはもっと視野を広げ、ふるさと納税だけでなく、日本の税金について学び、社会に反映できる納税者になりたい。